



吳服橋御門番所記

73  
2163



門 伊 3  
號 2.163  
卷

吳波橋清の事新記

一 清城の事 常經橋の事 記す

一 清城の事 二 名は切 戸主の事 一 一 屏風

一 屏風の事 秋葉の事 法の事 重なる事 屏風の事

一 長遠の事 記す

一 上 屏風の事 記す 清の事 記す

一 立河原の事 記す 二 屏風の事 記す

一 屏風の事

一 屏風の事 記す 子 記す 記す 記す 記す 記す

一 屏風の事 記す 記す 記す 記す 記す



明治三九年一月一日  
市立図書館  
長氏書贈

若福を修むるに細心のこゝに修むる所あり  
諸を修むるに修むるの心入らざる修むる修むる  
已に修むるに修むるに修むるに修むるに修むる  
細心のこゝに修むるに修むるに修むるに修むる

百に之を修むるに修むるに修むるに修むるに修むる  
之を修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

但し修むるに修むるに修むるに修むるに修むる  
即ち修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる  
修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

修むるに修むるに修むるに修むるに修むる

五分并出... 卷之十... 法... 卷...

卷中... 卷... 法... 卷...

他... 卷...

通... 卷... 法... 卷...

一 附... 卷... 法... 卷...

一 卷... 卷... 法... 卷...

湯敷... 目付... 湯敷... 湯敷...

一 所... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 湯敷... 湯敷...

一 常盤松 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

一 湯殿 此乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

此乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

一 上野 此乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

一 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

一 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

一 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命 此松乃 皇御之命 被禊人 之命

又云此の柏子木一切打てし中より松木を抜きしものは白濁  
是れ松木に由りたる也

右京深平知事平信房十二日扣印

- 一 御成一名、密書に由りて通事及由りて同付元花宗上人
- 一 遠く御成より出づる喜洲上平友成子母有衣也
- 一 平信著士より密書に前沙人形沙人何とて持取候也
- 一 平信著士より密書に一段の五若殿候事戸の夜事ハ
- 一 密書に御成の中より挑灯をて宛新灯に由り
- 一 密書に御成より密書に御成より出づる平信著士
- 一 平信著士より密書に御成より出づる平信著士

塵

佛形の沙(密書)に由り

一 是れ密書に由りて御成より出づる平信著士  
 以りて御成より出づる平信著士より出づる平信著士  
 石垣に渡りて流中の  
 平信著士より密書に由りて御成より出づる平信著士  
 場より出づる御成より出づる平信著士

平信著士より密書に由り

平信著士より密書に由り

平信著士より密書に由り

平信著士より密書に由り

平信著士より密書に由り

一 涉下是將之也 廣人

一 涉飛是將非也 廣人

一 涉飛是將之也 廣人

一 在而也

一 出之入廣侯者之將之入之者若也子武人廣小使  
之入在者也子武人宛之入內廣人  
卯涉從之入者若也方是 且控出武內  
廣人小使也  
始東方子子武人宛之入內廣人  
始東方子子武人宛之入內廣人  
始東方子子武人宛之入內廣人也

一 六月七日五五各物也

一 山伏通也 伏付也

一 涉飛揮干二三月一及之也

一 捨更射也 修燒也

一 涉飛也 涉飛也

一 石在草也 涉飛也

一 涉飛也 涉飛也

一 涉飛也 涉飛也

一 涉飛也 涉飛也

一 涉飛也 涉飛也



徳人舟出橋下挑灯を舟中へ  
大子内橋面出所より出帆を舟に代り  
大子舟中へ

一 松平城増高杉表出りて方は  
大子舟中へ

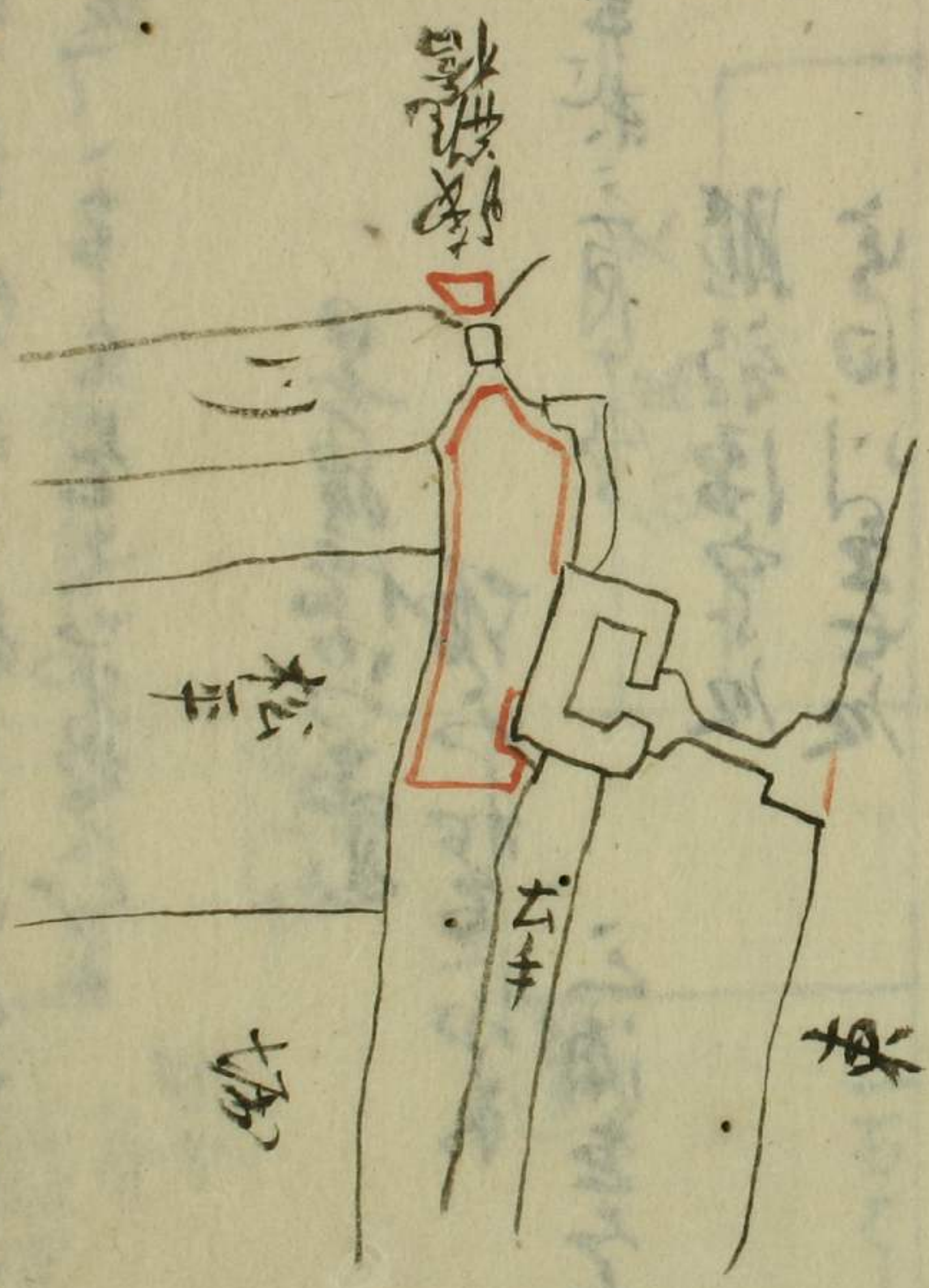
徳内代へ

一 渡船橋際を合せて出帆  
二 渡船橋際を合せて出帆  
三 渡船橋際を合せて出帆  
是は橋木片付舟のなりなり

一 渡船橋 沖に在りて出帆  
舟中へ出帆を合せて出帆  
舟中へ出帆を合せて出帆  
舟中へ出帆を合せて出帆

一 右 遠海へ出帆  
舟中へ出帆を合せて出帆  
舟中へ出帆を合せて出帆  
舟中へ出帆を合せて出帆

Faint, illegible handwritten text on the right page of the notebook.



Faint, illegible handwritten text on the left page of the notebook.

青洲の山敷地を、諸君、後諸君、  
其の概は、  
諸君にお返し、  
又、  
諸君にお返し、

長崎信州の事

諸君にお返し

元文四年正月

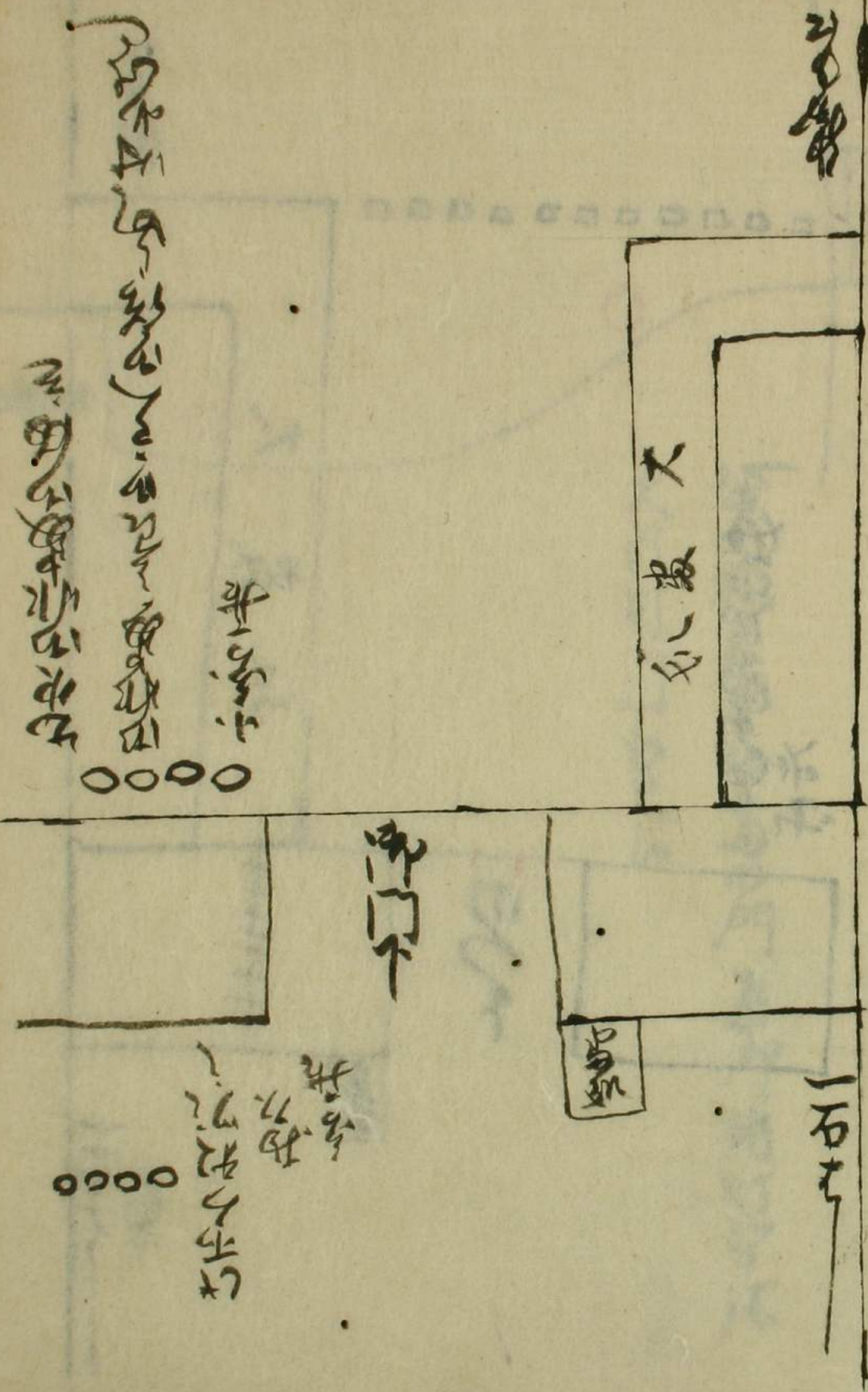
二月

服部清右衛門

字 田川 五七郎



子



山敷地

大畠

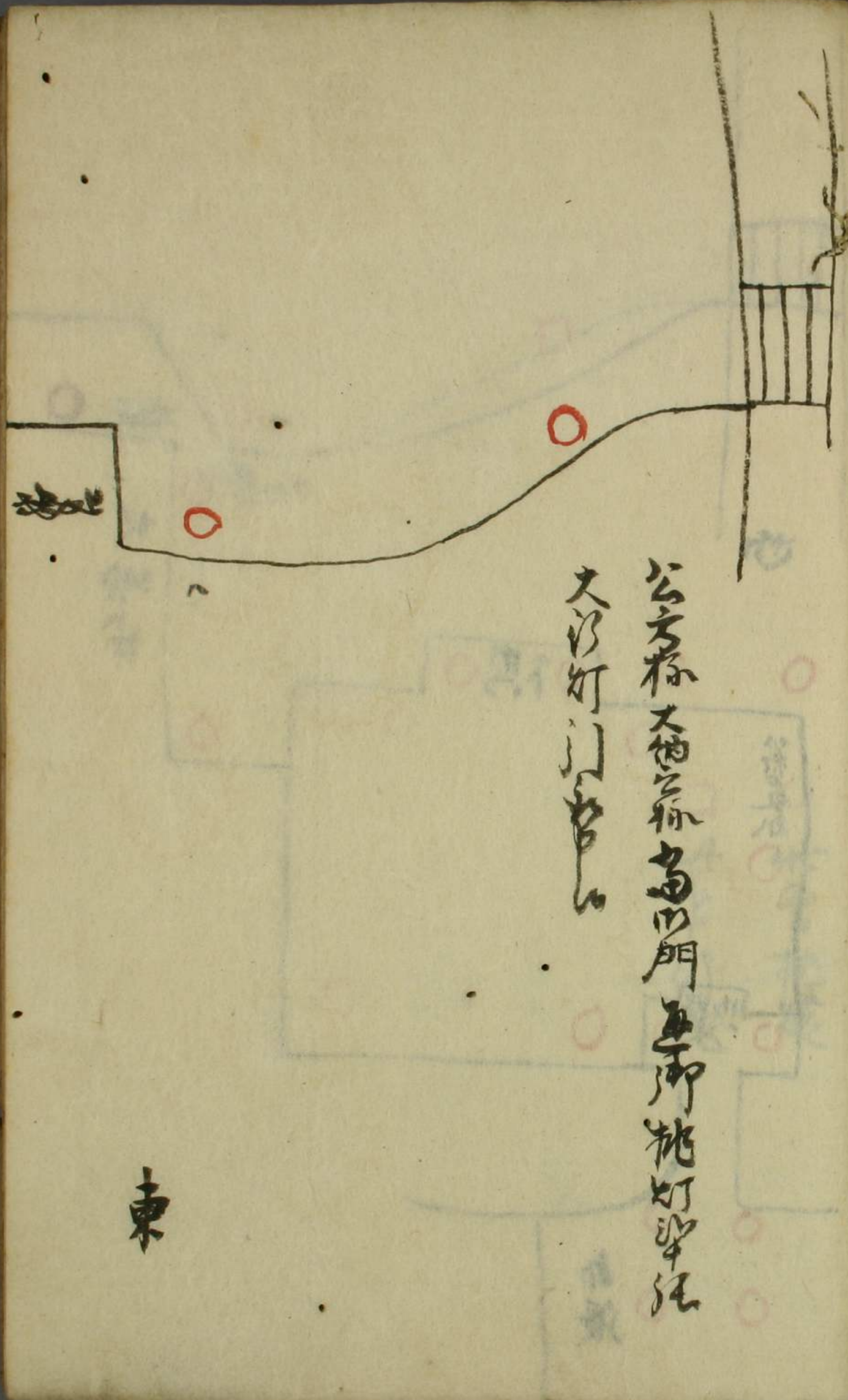
石

山敷地

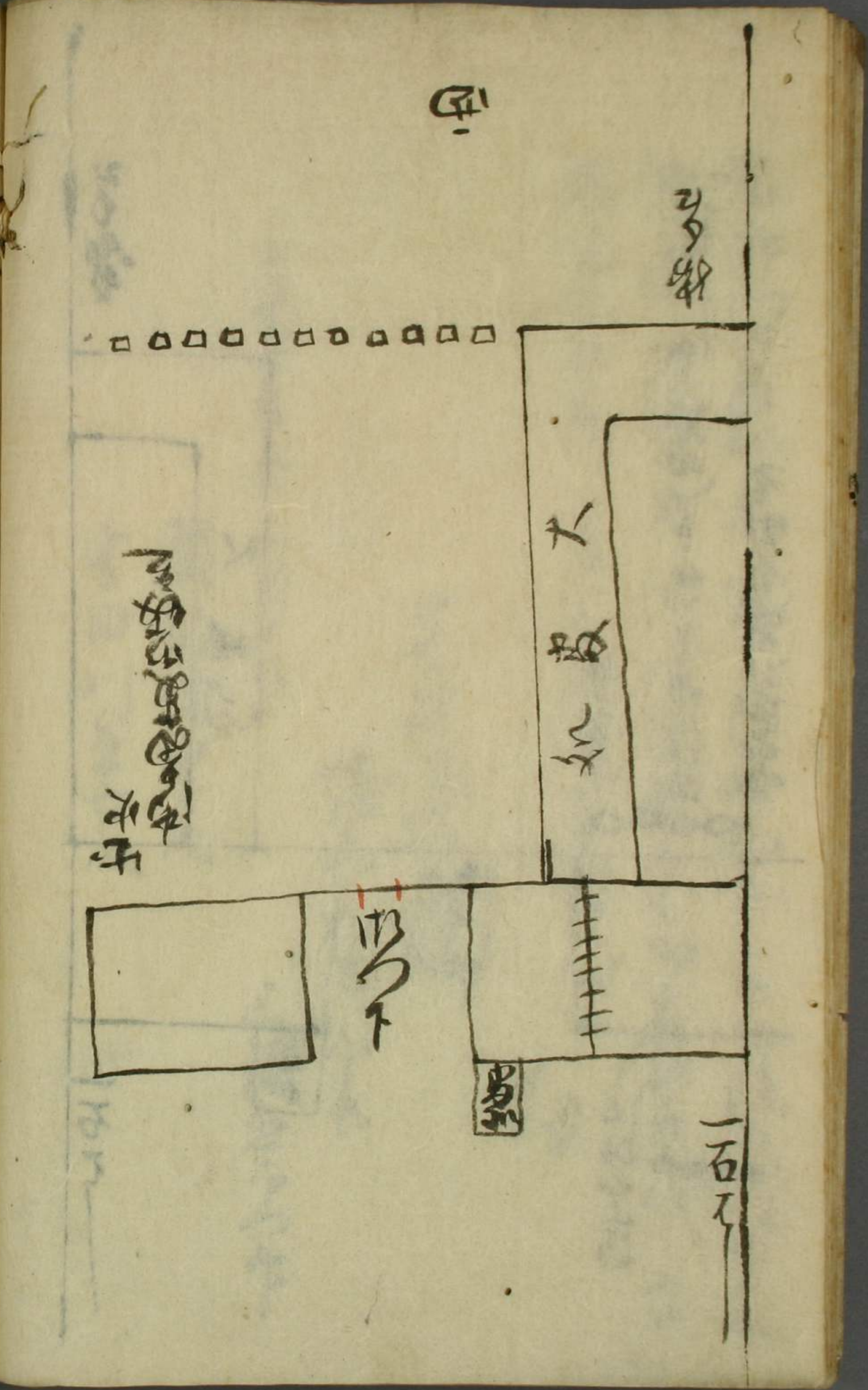
山敷地

山敷地

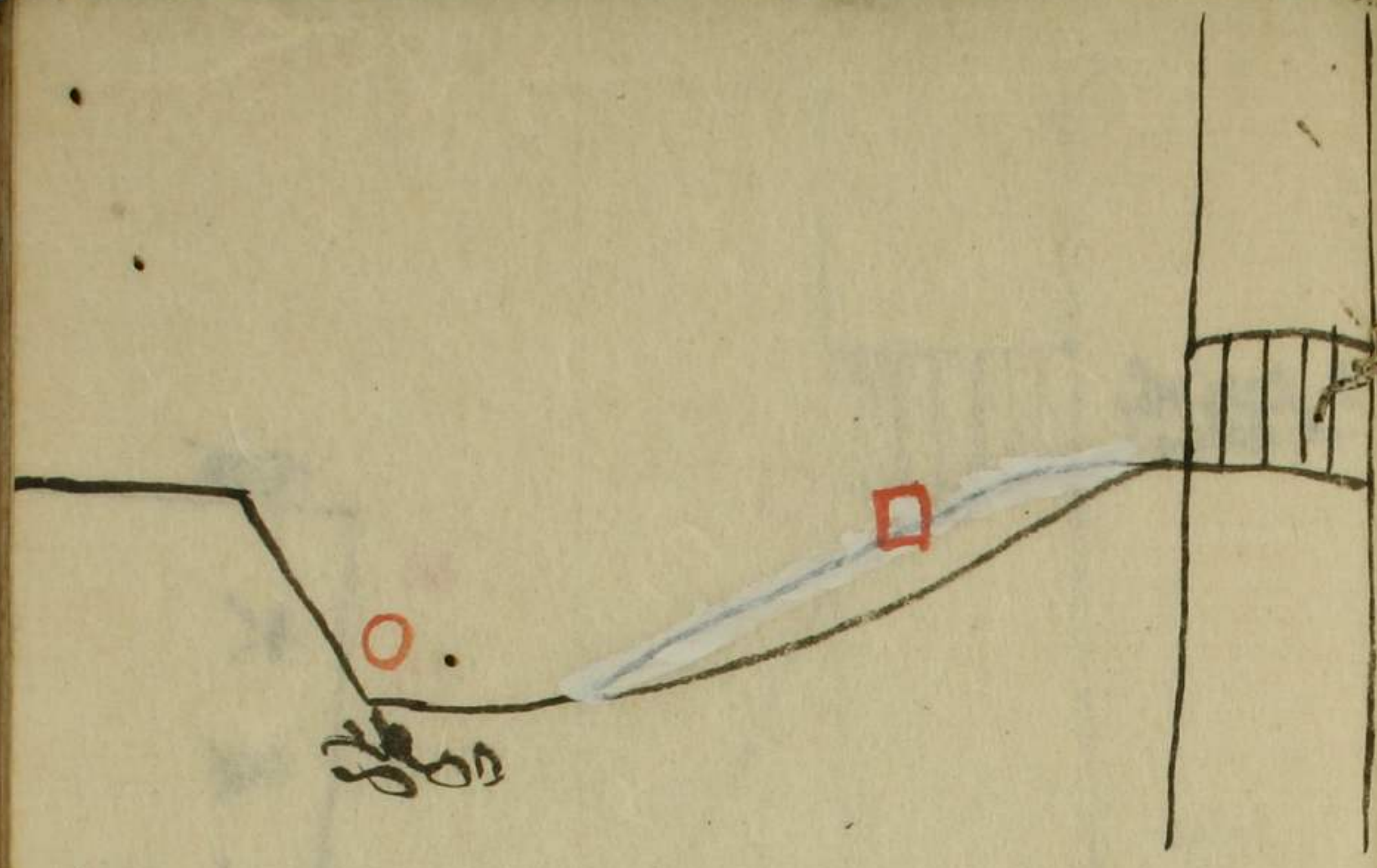
山敷地



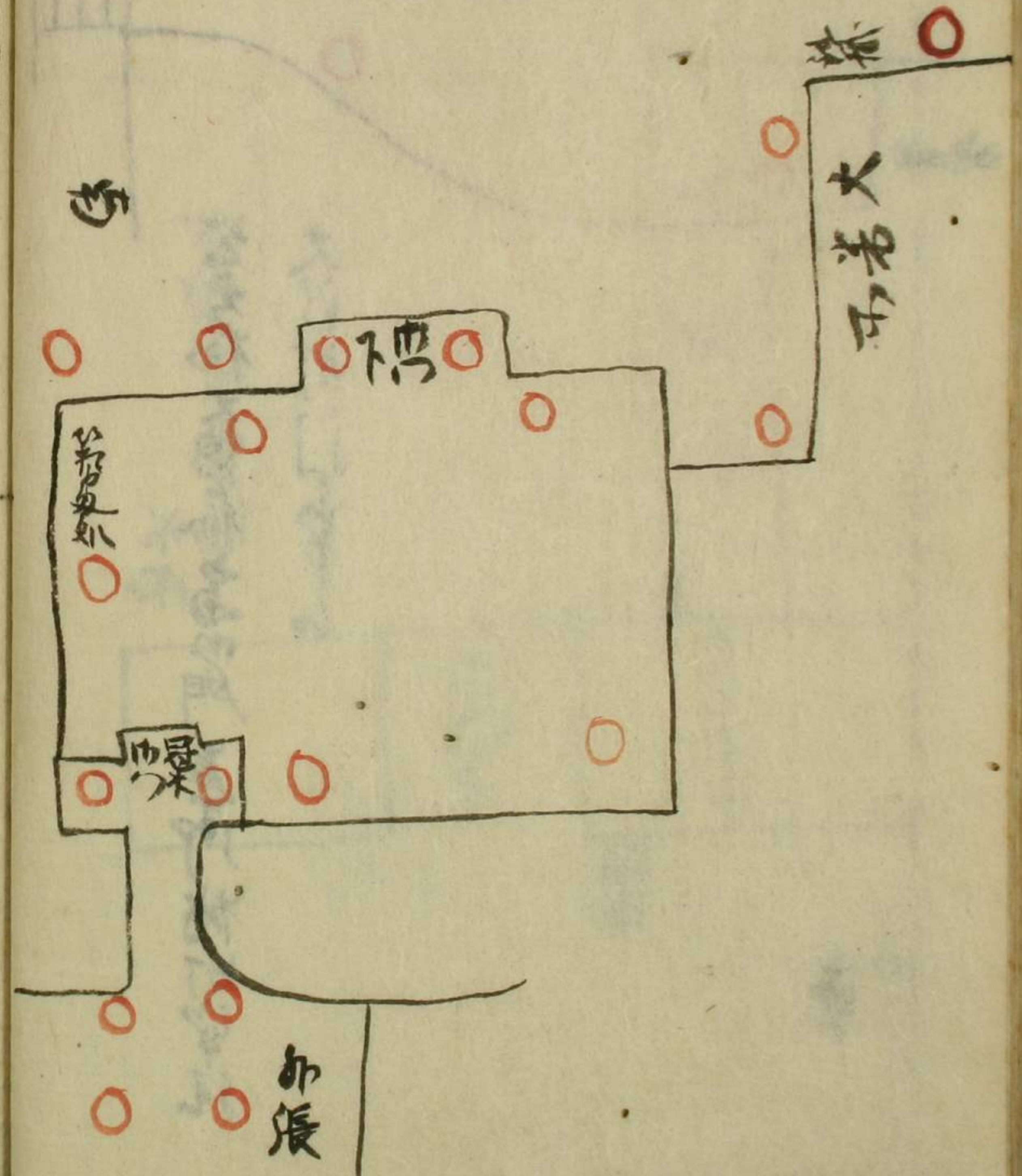
公方標大物之標高四明五所挑灯學法  
 大以灯山山書



此處有...



中中枕楼  
 中中枕楼



中

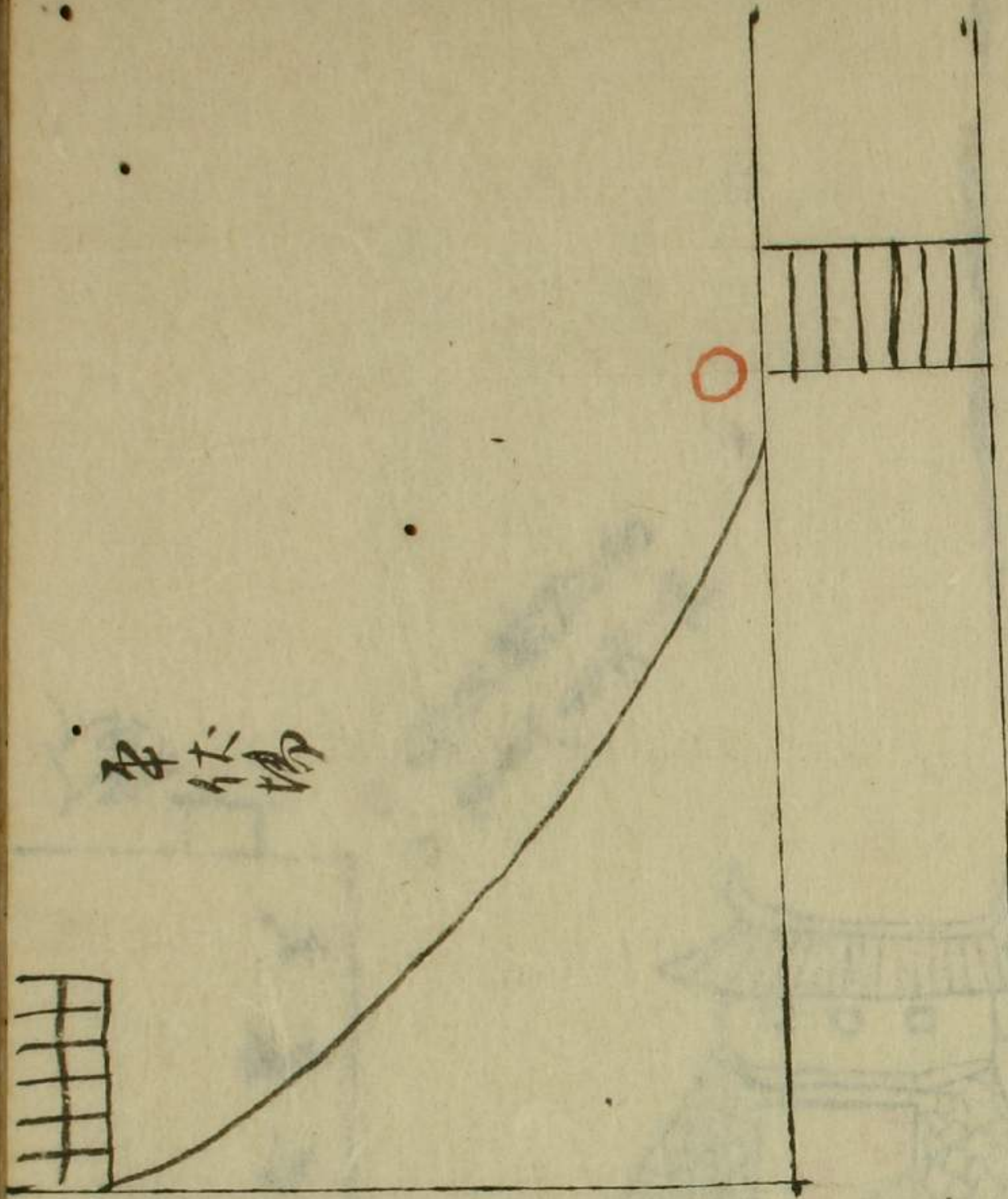
下中

中中枕楼

中中枕楼

中中枕楼

中中枕楼



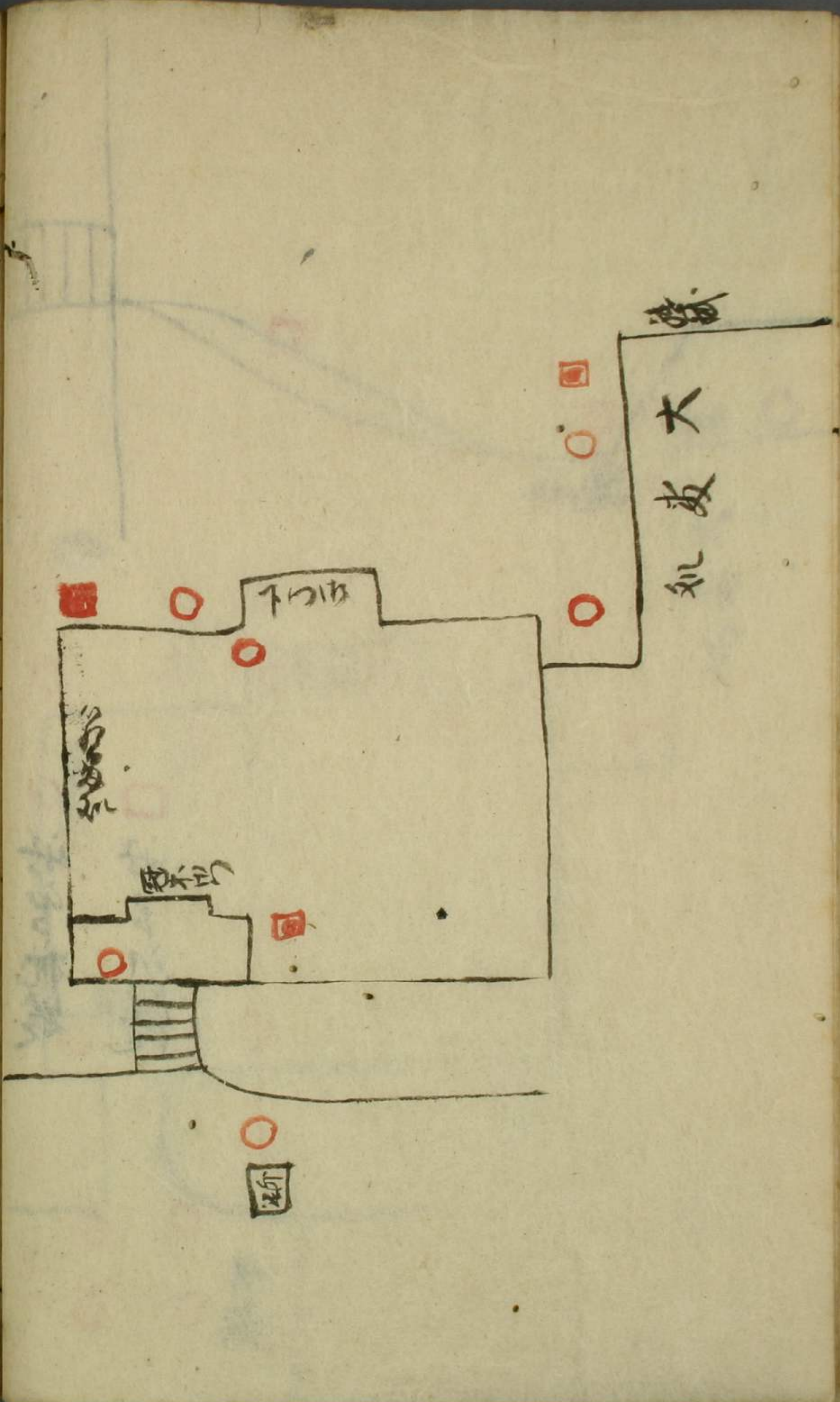
車休場

休車場

車  
休  
場

休  
車  
場

休  
車  
場



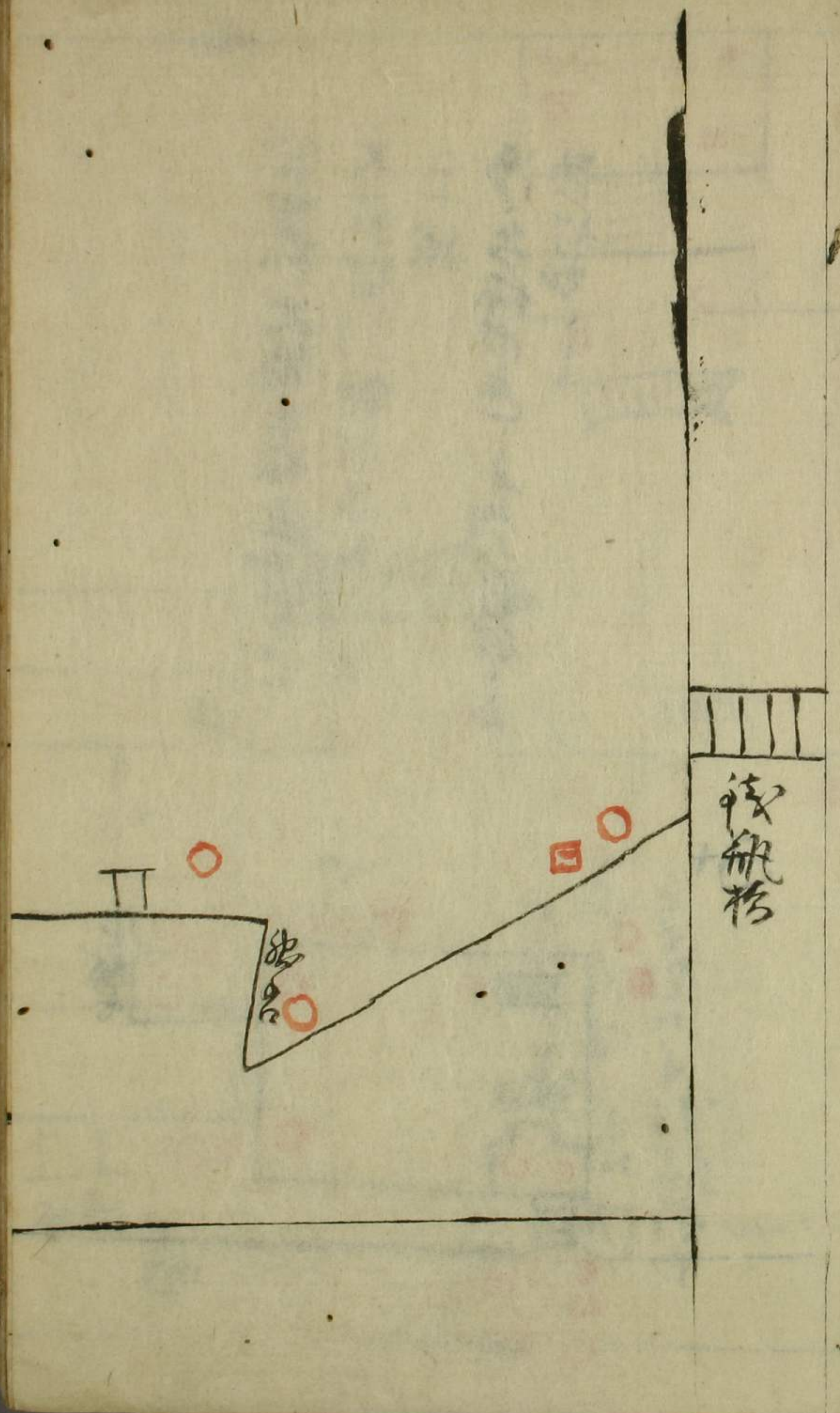
大車

休車場

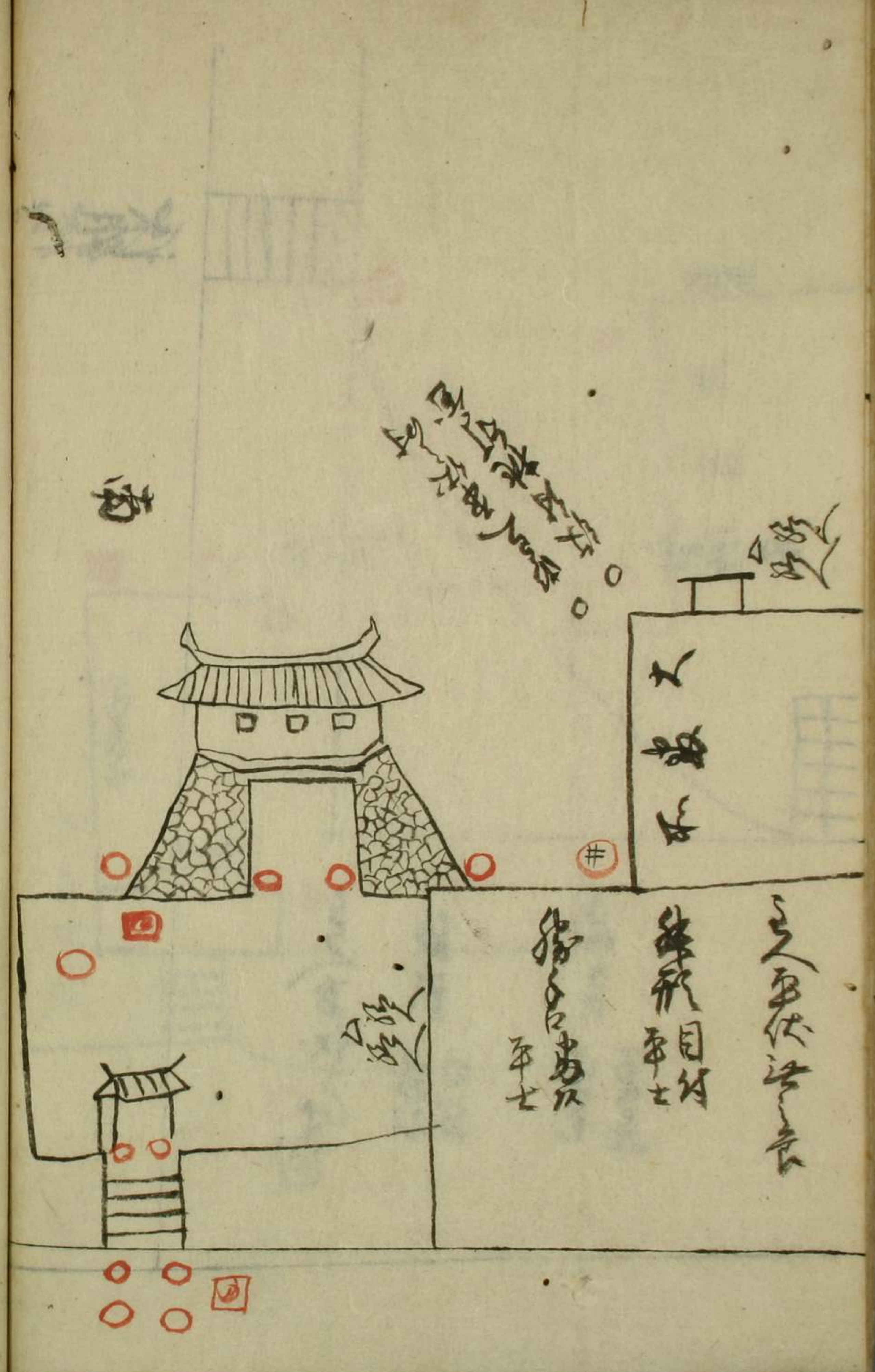
休車場

休車場

休車場



後城

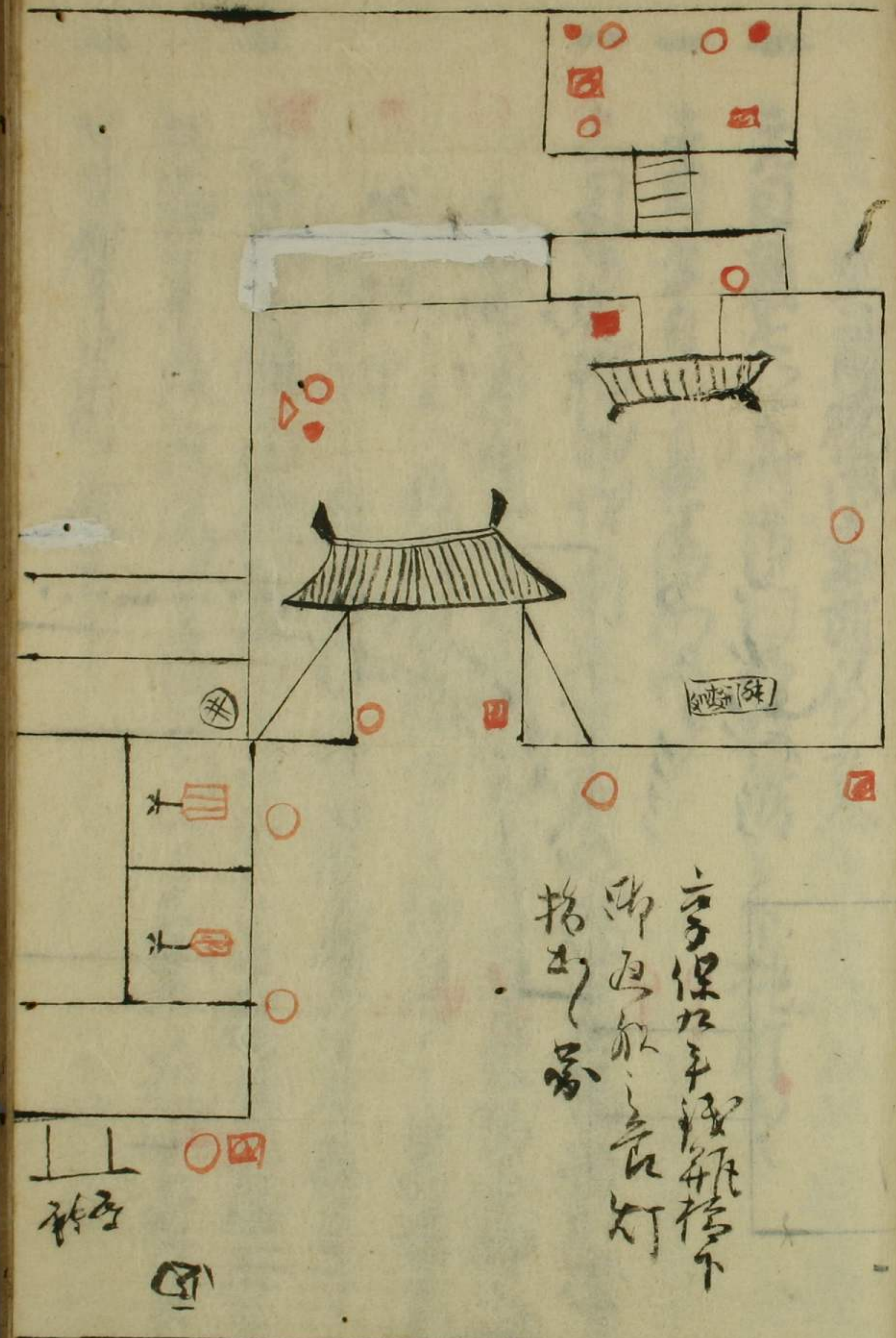


後城  
城門

大城

後城  
城門  
城門

南

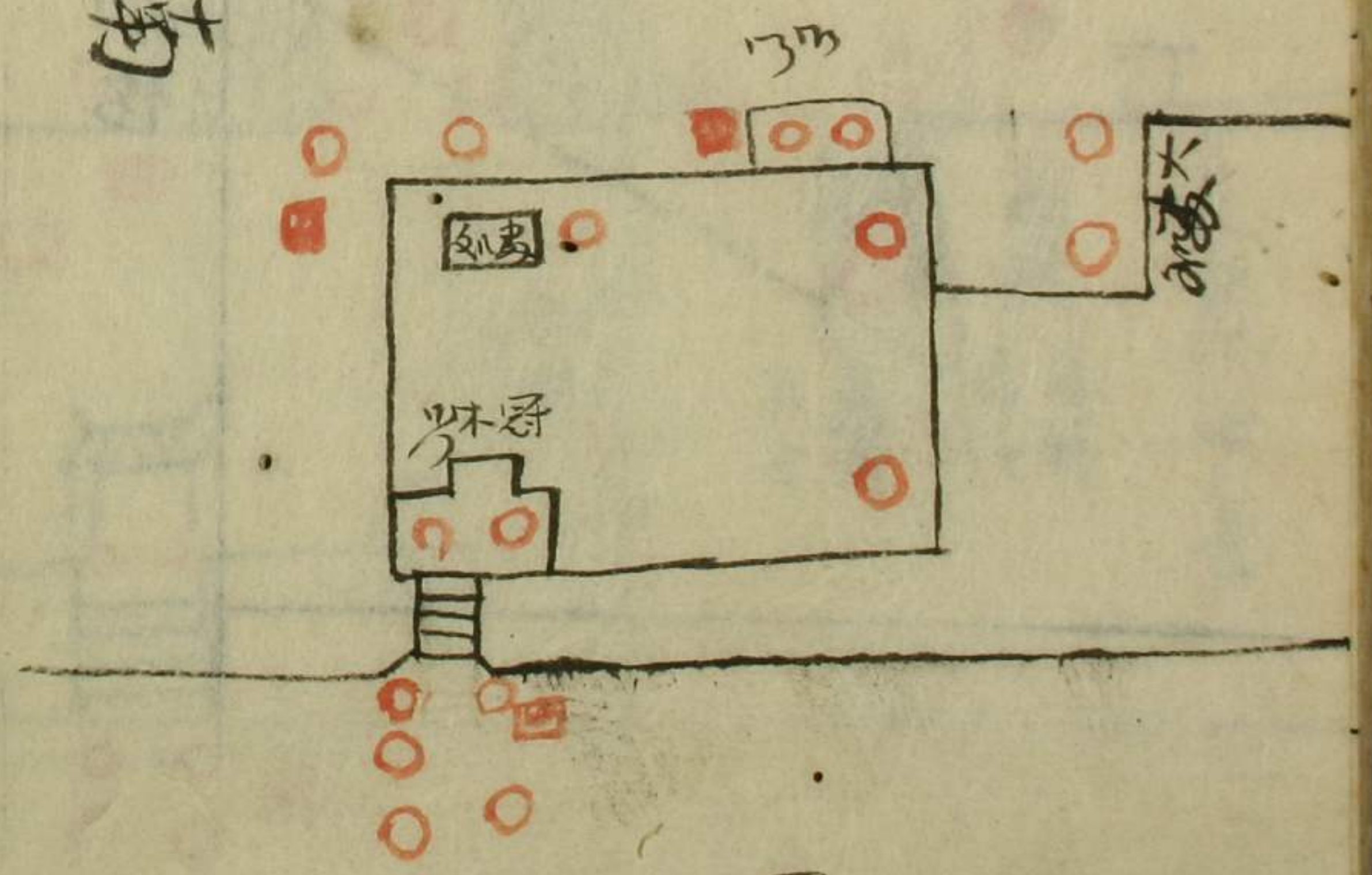


亭保江平...  
 即...  
 格...

格...  
 西

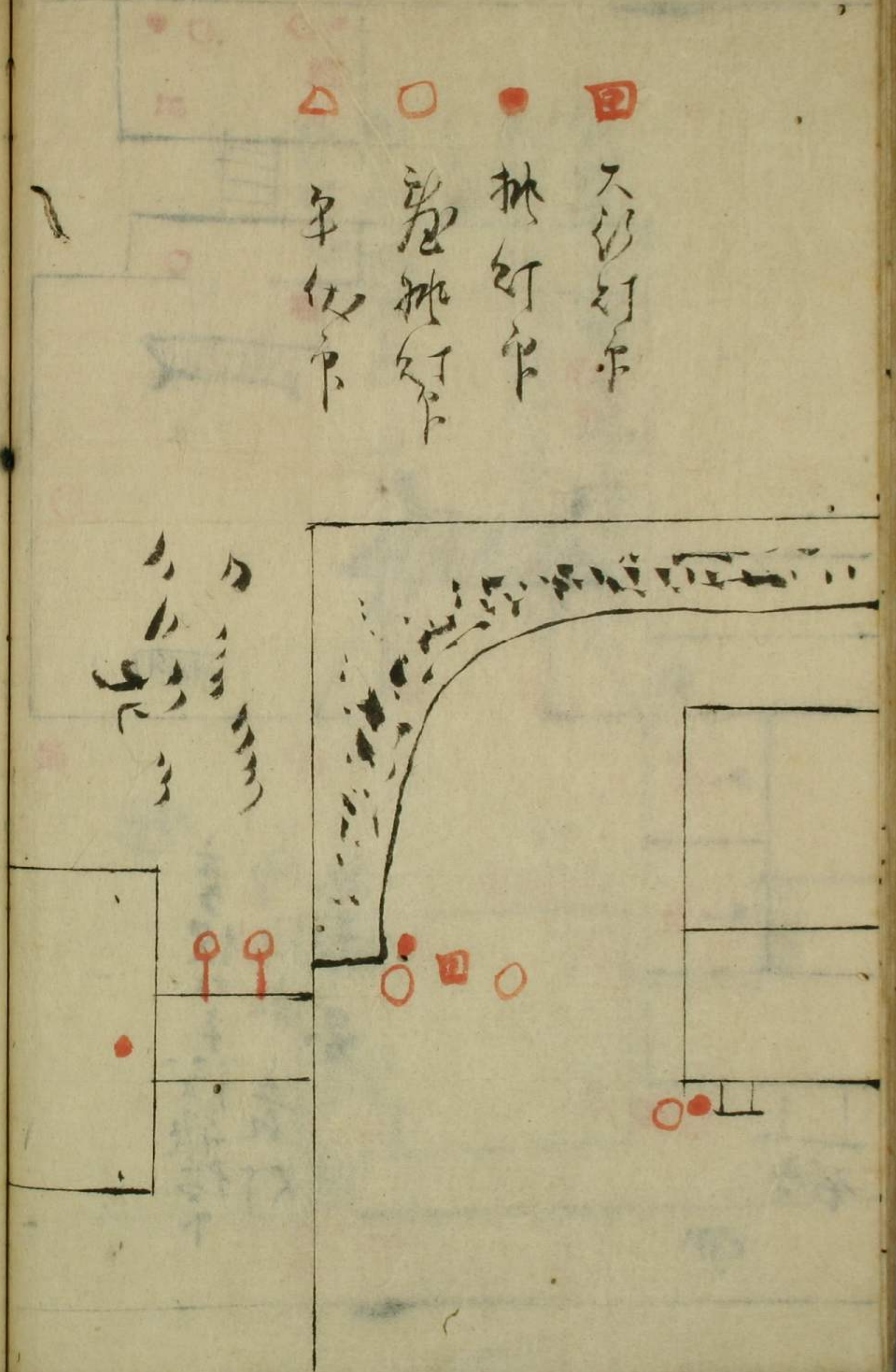
公方極大物之極五...  
 大...  
 二十...  
 涉...  
 格...

南





- 皇曆榜出裏所仍交
- 一 元日朝聖 寺時法門の松傍に下挑灯也
  - 一 二月春日 無事の所々
  - 一 三月法隆寺 法門の松傍に下挑灯也  
 但し右厨子同林に下二右名松跡山神林  
 と下二右松傍に下挑灯也 何れも一厨子也
  - 一 六日多羅高野 松傍に下三右名松跡山神林  
 只燈着板改膳子相也 一右名松跡山神林  
 七日厨子同林に下



一 高野寺藏未刻金曆  
一 高野寺藏未刻金曆  
一 高野寺藏未刻金曆

一 入奉々々晚七々々  
一 入奉々々晚七々々  
一 入奉々々晚七々々

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十日高野具具  
一 十日高野具具  
一 十日高野具具

一 十月十日 知母山 湯城 舟倉格

一 八朔 湯城 舟倉格

一 全格 申 別 介 一 月 一 日 一 月 一 日 湯城 舟倉格

一 林 下 下 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

一 十日 湯城 舟倉格

一 十日 湯城 舟倉格

一 十日 湯城 舟倉格

一 十日 湯城 舟倉格

一 十日 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

湯城 舟倉格

是

一 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格

一 湯城 舟倉格



附く桃灯の火に指別〜

一 書中如梅の因縁此の末の所に出る系に女保冬子  
負い下りぬ也之迄りぬ之故に上云主使事  
由事〜書目分中首尾平極極た書目分  
下りぬ出ぬ〜出ぬ系〜出ぬ〜  
此の保冬子の事〜た〜出ぬ〜  
此の保冬子の事〜

一 右保母の京中老中〜書目分中〜  
歳〜書目分中〜

但し其の〜信成町〜寺社寺社

一 年次代官〜試及〜角〜  
一 書目分中〜書目分中〜

是

一 行信の書目分中〜  
一 書目分中〜  
一 死人何人  
一 右の方も書目分中〜

何の書目分中〜

一 書付書し、書目付本は、  
早し、  
附し、  
一 書付書し、書目付本は、  
早し、

一 書付書し、書目付本は、  
早し、  
附し、  
一 書付書し、書目付本は、  
早し、

一 書付書し、書目付本は、  
早し、  
附し、  
一 書付書し、書目付本は、  
早し、

一 書付書し、書目付本は、  
早し、  
附し、  
一 書付書し、書目付本は、  
早し、

一 書付書し、書目付本は、  
早し、  
附し、  
一 書付書し、書目付本は、  
早し、

一 書付書し、書目付本は、  
早し、  
附し、  
一 書付書し、書目付本は、  
早し、

同公無しり人々付居る財在りし事

一 堂人々居る事、其の金遣り来りて指ぬ事、御座り

一 下段、勿偏出職事、其の居りし事、御座り

一 此節、しり居る事

一 板方大小、神名口持出りし事、御座り

一 為りし事、御座り

一 子負、此例、しり居る事、御座り

一 而、此例、しり居る事、御座り

一 湯、此例、しり居る事、御座り

一 中、此例、しり居る事、御座り

一 足、此例、しり居る事

一 肩、此例、しり居る事

一 此例、しり居る事、御座り

一 子負、此例、しり居る事、御座り

一 此例、しり居る事、御座り

一 此例、しり居る事、御座り

一 此例、しり居る事、御座り

一 此例、しり居る事、御座り

一 此例、しり居る事、御座り

一 此例、しり居る事、御座り

○ 法身附法門由如物方

一 法身附法門由如物方 此法身中出修之家業  
法身一人下法身何所取例之云云出如人出舍  
乃方之出如和之紅繩 法身和法身如和  
出修家業之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身

一 於下場乃方由法身中出修之家業  
此法身中出修之家業 乃法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身

一 此法身中出修之家業 乃法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身

一 此法身中出修之家業 乃法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身  
乃法身之出如法身之出如法身之出如法身



一 江戸場町人堂儀は信時ハ出布所方ニ依りて死  
信時ハ熱る湯ニ入ル所方ニ出布所ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死

一 信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
信判ハ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死  
出布ハ信判ニ依りて早急出布ハ信判ニ依りて死

若くはと云々 松子 其の方々 出雲郡の人 其の法  
屋敷の身 花の由り 其の法 相成て 其の由り 其の  
其の由り 其の由り 其の由り 其の由り 其の由り

出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡  
出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡

出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡  
出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡

早く出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡  
出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡

出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡  
出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡 出雲郡

山あそびの跡の遺骸

一 下場へ白捨子中布を及呂重の妻あはれに死の致せし  
 手後山月を海野の山に死にた又さきと若く若く若く  
 のは白捨子死にたさきと若く若く若く若く若く若く若く  
 一 旭並法をたはる果は下場へは機舟に果を載してん  
 見よ若手は機舟をさきと若く若く若く若く若く若く若く  
 秘子の手後をたはるの法旭印又たさきと若く若く若く  
 手及たさきと若く若く若く若く若く若く若く若く若く  
 地へ埋むるは故に中布を及呂重の妻あはれに死の致せし  
 手後死にた中布を及呂重の妻あはれに死の致せし

故の果初はさきと若く若く若く若く若く若く若く若く若く  
 手及たさきと若く若く若く若く若く若く若く若く若く

一 下場へ白捨子中布を及呂重の妻あはれに死の致せし  
 手後山月を海野の山に死にた又さきと若く若く若く若く  
 のは白捨子死にたさきと若く若く若く若く若く若く若く  
 一 旭並法をたはる果は下場へは機舟に果を載してん  
 見よ若手は機舟をさきと若く若く若く若く若く若く若く  
 秘子の手後をたはるの法旭印又たさきと若く若く若く  
 手及たさきと若く若く若く若く若く若く若く若く若く  
 地へ埋むるは故に中布を及呂重の妻あはれに死の致せし  
 手後死にた中布を及呂重の妻あはれに死の致せし

組合の多岐にわたるは、おのれは右の如  
一 工場に内出物の程、新造の如くお見附の身分、  
出物の程、内出物の程、新造の如くお見附の身分、  
お見附の身分、

一 自負の工場に、お見附の身分、  
お見附の身分、お見附の身分、  
お見附の身分、

一 生地の程、お見附の身分、  
お見附の身分、お見附の身分、  
お見附の身分、

お見附の身分、

一 生地の程、お見附の身分、  
お見附の身分、お見附の身分、  
お見附の身分、

一 工場に、お見附の身分、  
お見附の身分、お見附の身分、  
お見附の身分、

一 工場に、お見附の身分、  
お見附の身分、お見附の身分、  
お見附の身分、

組合の事柄の如くは、此の儀に在りては、  
 一 諸君の御座り申す程、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、

一 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、

一 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、

此の儀に在りては、此の儀に在りては、

一 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、

一 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、

一 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、  
 此の儀に在りては、此の儀に在りては、

種より結ぶる子々々々知信れ成りたるは、  
そとより出月村中へ、成りたるは、  
一 下場より成りたる、  
馬下場より成りたる、  
種馬を、  
一 下場より成りたる、  
種馬を、  
一 下場より成りたる、  
種馬を、

一 下場より成りたる、  
種馬を、

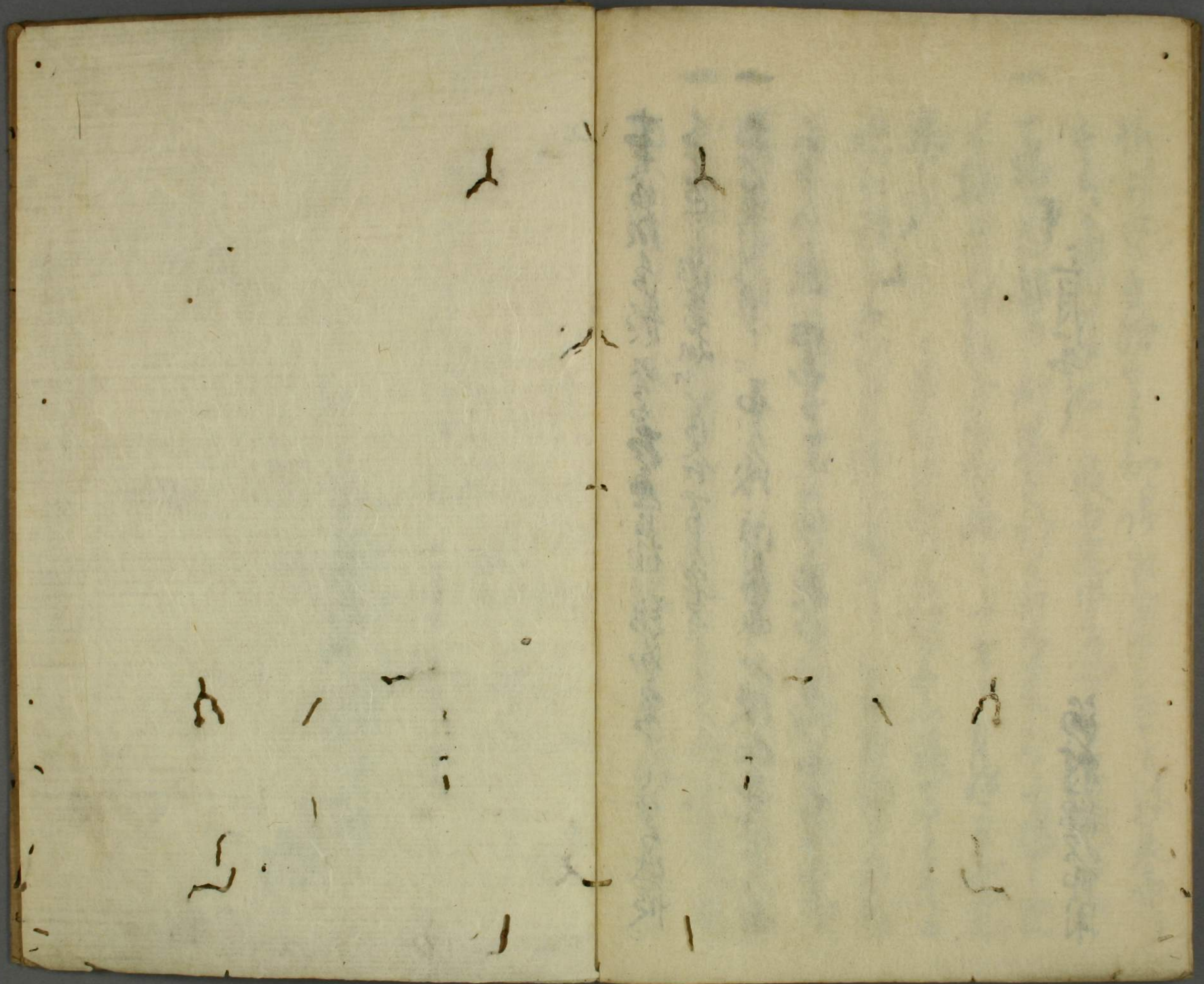
事ゆゑ形なるおとす、  
一 下場より成りたる、  
種馬を、

一 下場より成りたる、  
種馬を、

い

甲 二月

河村源次郎



Y

Y

A

-

-

-

2

-

Y

-

Faint, illegible markings and bleed-through from the reverse side of the pages, including a large 'Y' and various dashes and lines.

A

2

河村源次郎

和

山

山

山

山

山

山

山



